

令和3年度 包括的な支援体制の構築・整備に向けたモデル事業 県社協 HP 掲載用報告書

神奈川県社協ホームページに掲載しますので、以下に事業の概要を分かりやすく、簡潔に記入してください。

| | |
|--|--|
| 社協名 | 逗子市社会福祉協議会 葉山町社会福祉協議会 |
| 対象となる実践・ テーマ ※いずれか1つに○ をつける。 | (1)「社協の総合相談」体制の確立・強化を目的とした事業 (2)社協の専門性に即した職員育成プログラムの実施と検討を目的とした事業 (3)その他、包括的な支援体制の構築・整備の推進に係わる事業 |
| 事業名 | 令和3年度 逗葉地区コミュニティソーシャルワーク基礎研修 |
| <p>事業の概要〔事業の目的・取組みの概要・成果や参加者の様子・今後の展望等〕</p> <p>※活動の様子が分かる画像を2枚程度挿入して下さい。</p> <p>※各市町村社協ホームページ等にて本事業の掲載等を行う場合は、URLを記載して下さい。</p> <p>1. 事業の目的</p> <p>日常生活圏域による小地域福祉活動などを基盤としながら、地域住民の主体的な福祉活動の活性化、地域住民が抱える生活問題の発見・把握、個別の生活問題を地域課題として捉えた取り組みの企画・立案と実践、新たな社会資源の創設、住民・社協・多職種専門職及び行政等の連携・協働による生活問題や地域課題を解決する体制づくりを進める必要性など、コミュニティソーシャルワークに関する地域住民・社協・多職種専門職及び行政等の共通認識化を図ることを主な目的として開催した。</p> <p>2. 取組みの概要</p> <p>地域住民向けと、高齢・障害・児童・生活困窮等のケースワークに関わる専門職向けに分けて、住民による助け合い支え合いの地域づくりの実践、多機関・多職種連携・協働やネットワークの構築のために、コミュニティソーシャルワークの視点や考え方、技術の習得を図った。</p> <p>講師：日本社会事業大学 准教授 菱沼 幹男氏 宇都宮短期大学 教授 宮脇 文恵氏</p> <p>共催：逗子市社会福祉協議会、葉山町社会福祉協議会、神奈川県社会福祉協議会</p> <p>①1日目（地域住民向け）</p> <p>テーマ：地域で互いに支え合うための基本を学ぼう！～コロナ下でどう動くか～</p> <p>日時：令和4年1月23日（日）10：00～12：10</p> <p>会場：オンライン開催（ZOOM）</p> <p>※当初集合形式での開催予定だったが、まん延防止等重点措置の実施にともないオンライン開催に変更するとともに、開催時間を短縮。自宅等でのオンライン参加が難しい受講者が集まってZOOMに参加できるサテライト会場を用意した。</p> <p>内容：○講義「地域で支え合うための基本を学ぼう～コロナ下でどう動くか～」 日本社会事業大学 准教授 菱沼 幹男氏 ○コロナ下での地域活動の事例発表</p> | |

①山の根自治会（逗子）／龍村 敦子氏

②サロン de スマイル（葉山）／白澤 和子氏

○質疑応答、まとめ

○コロナ禍に対応した社協事業の紹介

- ・逗子市社会福祉協議会（フードドライブ事業、子ども食堂応援事業協力金の支給、サロン実施の留意事項の作成、サロン再開にむけたグッズの提供及び貸出、運動・交流の機会の提供、オンライン活用支援、コロナ禍の各団体の取り組み紹介）
- ・葉山町社会福祉協議会（コロナ禍生活食材応援プロジェクト、助成金の活用、コロナ禍での活動の工夫の事例集、オンライン活用講座、オンライン活用支援）

参加者数：19名（個人、町内会・自治会関係者、ボランティア・市民活動団体活動者、サロン等の担い手など）

参加者の感想：コロナ禍での活動の方法や展開に悩み、今後の活動の知恵を得たいと参加された方が多く、地域活動者からの逗葉地域の事例や講師からの他市町・県外の事例などから、つながりを切らさない取り組みの重要性や今後の活動への気づきやヒントを得られ、活動へのモチベーションの向上（励み）につながったとの声を多く頂いた。

②2日目（専門職向け）

テーマ：多問題を抱える家族や制度の狭間のケースについて一緒に考えましょう
～地域支援と個別支援を結びつける事例検討～

日時：令和4年3月23日（水）13：30～16：30

会場：オンライン開催（ZOOM）

内容：○講義「個別支援と地域支援を結びつける事例検討の進め方」

日本社会事業大学 准教授 菱沼 幹男氏

○事例紹介 逗子市社会福祉協議会

「認知症の祖父母の介護と、0歳児及び発達障害の幼児の育児のダブルケア」の事例

○不足情報の確認

○グループワーク

CSW フレーム（9マスフレーム）を用いたグループによる事例検討

○グループごとの発表

○講師講評、本ケースの今後の課題、まとめ

参加者数：15名（居宅介護支援事業所、地域包括支援センター、障害者相談支援事業所、障害福祉サービス事業所、在宅医療介護連携相談室、子育て支援センター、行政職員等）

参加者の感想：多様な分野の専門職の参加が得られ、ケースの課題の整理や、ストレングスに着目した検討がしやすい事例検討の手法を学べ、実践でも使ってみたいとの感想を頂いた。

3. 成果や参加者の様子

<1日目（地域住民向け）>

- ・参加者の感想：コロナ禍での活動の方法や展開に悩み、今後の活動の知恵を得たいと参加さ

れた方が多く、地域活動者からの逗葉地域の事例や講師からの他市町・県外の事例などから、つながりを切らさない取り組みの重要性や今後の活動への気づきやヒントを得られ、活動へのモチベーションの向上（励み）につながったとの声を多く頂いた。

- ・コロナ禍での閉じこもりによる心身の不調・衰え、生活の孤立、生活困窮など新たな生活問題への対応とその必要性を伝えるとともに、コロナ禍で停滞しがちな地域活動の再開の工夫やつながりを途切れさせない工夫などを伝えることができ、身近な生活問題への気づきや今後の活動のヒントを得ることにつながったと考えられる。

また、食での交流や山歩きなど福祉以外の他分野の活動者の参加があり、分野を超えた地域でのつながりなど今後の連携が期待できる。

<2日目（専門職向け）>

- ・参加者の感想：多様な分野の専門職の参加が得られ、ケースの課題の整理や、ストレングスに着目した検討がしやすい事例検討の手法を学べ、実践でも使ってみたいとの感想を頂いた。
- ・複合的な多問題を抱える世帯のケースについて、講師発案の9マスフレームを活用して、高齢、障害、児童、医療等各分野の専門職が集まり、事例検討を行った。ストレングスに着目したアイデア出しや、多職種での共通認識づくりのためのツールとして、今後の日常的な支援でも活用してもらうことが期待できる。また、日頃同分野ごとの事例検討や、個別ケースごとに高齢分野と障害分野、児童分野と障害分野の関わりはあっても、上記の多分野・多職種が一堂に会しての検討会は逗葉地区ではあまり例がなく、今後の地域での包括的支援体制整備に向けた第一歩となった。

<2日間通じて>

- ・逗葉地区として、逗子市・葉山町の両社協が広域的にタイアップした研修会を開催したことで、両市町の地域性などは異なりながらも、包括的支援体制づくりの基本となる理念や今後の取り組むべき方向性などを広く共有することができ、とても有効だった。

4. 今後の展望

- ・逗葉地区では、両市町にまたがって活動する団体や事業所も多く、逗子・葉山合同で研修を行い、共通認識づくりを進めることはとても有意義であった。その一方で、各市町の重層的支援体制整備事業の取り組み状況や、両市町の地域活動の状況が異なるため、今後本研修以外に、逗子・葉山それぞれで地域性に応じた包括的支援体制の整備にむけた取組みが求められる。

逗子では、今年度、令和5年度からの地域福祉プランの作成を進める予定となっている。市では、重層的支援体制整備事業を開始しているが、包括的支援体制整備事業の具体的な体制、方向性等を逗子市と協議、検討をし、計画に反映する予定である。

葉山では、令和4年度には包括的支援体制整備を意識した多職種の専門職同士の連携、地域住民と専門職の連携を考えていくための検討を開始する予定である。

1日目 (1/23 住民向け)



オンラインの開催
自治会の各種会議

サロン：バランスボール
アート

2日目 (3/23 専門職向け)

